

平成28年度長野県学校保健統計調査の結果について

長野県教育委員会事務局保健厚生課

1 調査概要

(1) 目的

児童生徒の発育状態及び健康状態を毎年調査し、学校保健の基礎資料とする。

(2) 調査対象

国・公立及び私立の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校(定時・通信制は除く)の園児及び児童生徒で、平成28年4月から6月に定期健康診断を実施した者

学校種	学校数	発育状況測定人数
幼稚園	102 園	3,623 人
小学校	369 校	111,105
中学校	195	59,845
高等学校	96	55,873
計	762	230,446

※中等教育学校の前期課程は中学校に、後期課程は高等学校に含む。

2 発育状態

(1) 身長・体重の平均値の状況

区 分			身 長			体 重			
性 別	校 種 別	年 齢	cm			kg			
			28 年 度 長 野 県	27 年 度 長 野 県	28 年 度 全 国	28 年 度 長 野 県	27 年 度 長 野 県	28 年 度 全 国	
男 子	幼 稚 園	5	110.9	110.3	110.4	18.9	18.9	18.9	
		6	116.3	116.3	116.5	21.2	21.1	21.4	
	小 学 校	7	122.1	122.2	122.5	23.7	23.7	24.0	
		8	127.8	127.8	128.1	26.9	26.8	27.2	
		9	133.2	133.2	133.6	30.1	30.1	30.6	
		10	138.5	138.5	138.8	33.7	33.5	34.0	
		11	144.7	144.5	145.2	37.8	37.6	38.4	
	中 学 校	12	152.0	152.2	152.7	43.3	43.5	44.0	
		13	159.5	159.3	159.9	48.8	48.4	48.8	
		14	164.8	164.8	165.2	53.7	53.6	53.9	
	高 等 学 校	15	167.9	167.7	168.3	58.4	58.3	58.7	
		16	169.4	169.5	169.9	60.1	60.1	60.5	
		17	170.4	170.2	170.7	62.1	61.9	62.5	
	女 子	幼 稚 園	5	109.7	109.6	109.4	18.5	18.6	18.5
			6	115.5	115.4	115.6	20.7	20.7	20.9
		小 学 校	7	121.3	121.1	121.5	23.2	23.0	23.5
			8	126.9	127.0	127.2	26.0	26.1	26.4
9			133.0	132.9	133.4	29.4	29.3	29.8	
10			139.5	139.5	140.2	33.4	33.3	34.0	
11			146.2	146.2	146.8	38.2	38.2	39.0	
中 学 校		12	151.4	151.4	151.9	43.5	43.2	43.7	
		13	154.6	154.6	154.8	46.9	47.1	47.2	
		14	156.2	156.1	156.5	49.9	49.6	50.0	
高 等 学 校		15	156.7	156.7	157.1	51.0	51.1	51.7	
		16	157.2	157.3	157.5	52.2	52.1	52.6	
		17	157.6	157.5	157.8	52.5	52.4	52.9	

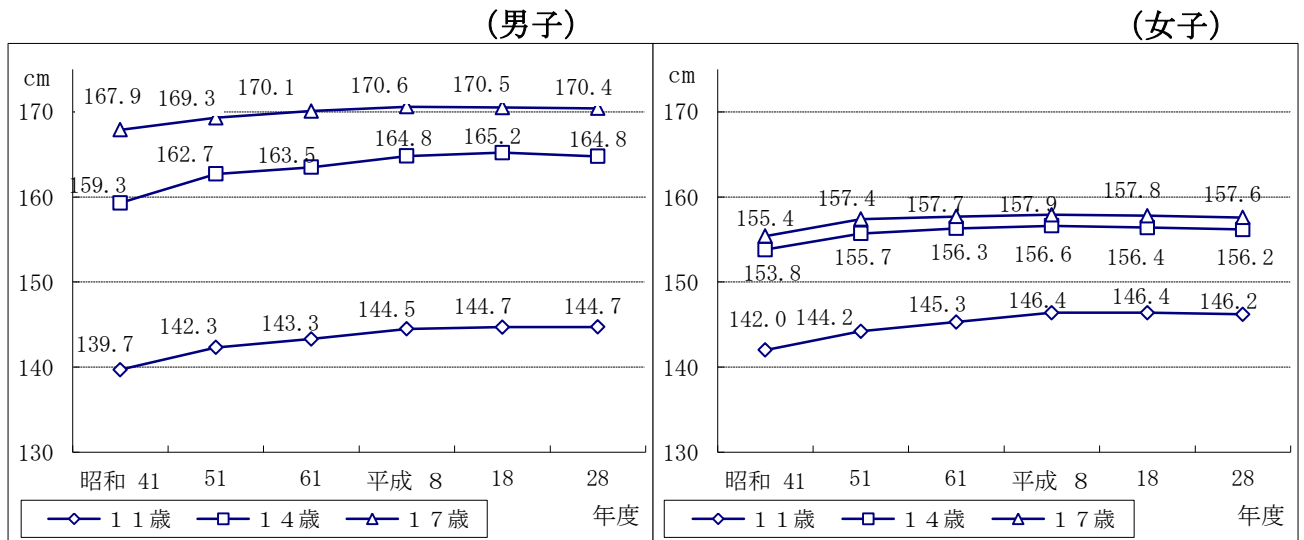
(注) 1 全国の数値は、文部科学省の学校保健統計調査(抽出調査)の速報値である。

2 年齢は各年4月1日現在の満年齢である。(以下の各表において同じ。)

(2) 平均値の推移

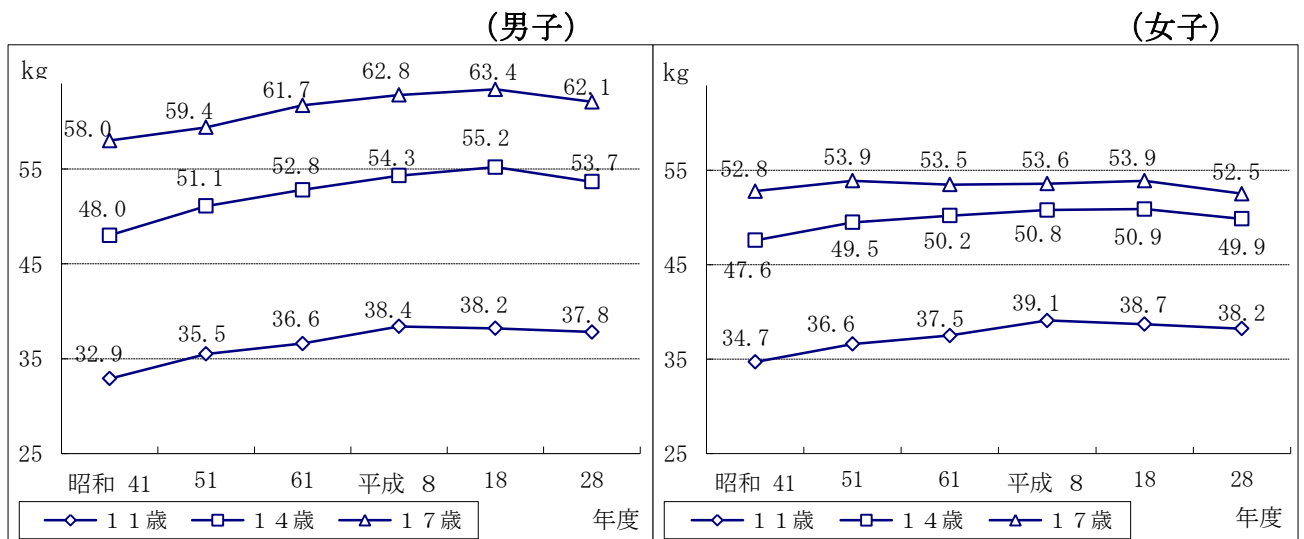
身長

男女の各年齢とも、最近20年間は横ばいか、やや減少傾向である。



体重

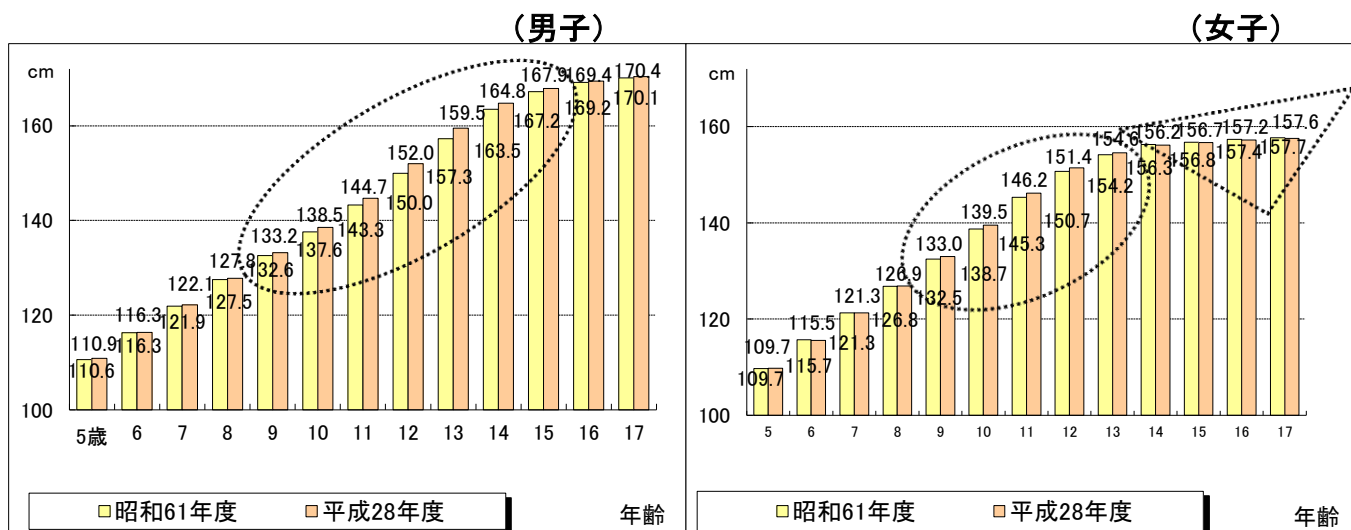
男女の各年齢とも、平成18年度までは増加又は横ばいであったが、最近10年間は減少傾向である。



(3) 昭和61年度（30年前≒親世代）との年齢別比較

身長

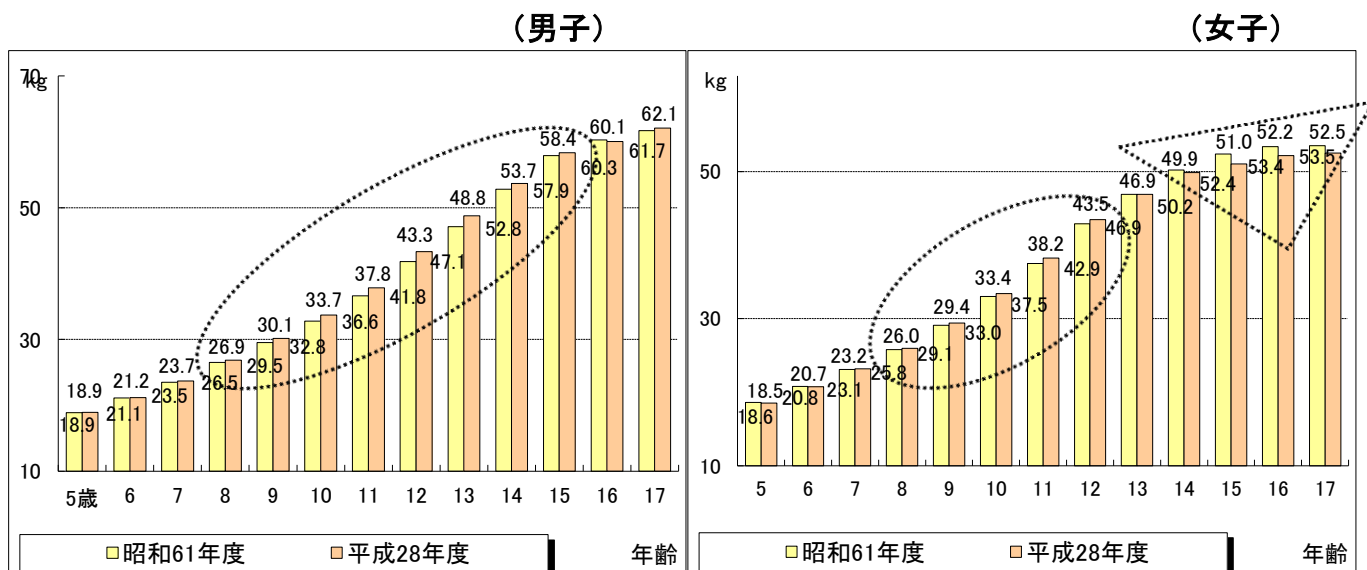
男子は各年齢で親世代を上回っているが、女子は6歳と、14歳から17歳が親世代をわずかに下回っている。最も差がある年齢は、男子は13歳で2.2cm、女子は11歳で0.9cmでそれぞれ高くなっている。



体重

男子は16歳を除く各年齢で親世代を上回っているが、女子は5歳と6歳、14歳から17歳が親世代を下回っている。

最も差がある年齢は、男子は13歳で1.7kg重く、女子は15歳で1.4kg軽くなっている。



3 健康状態

(1) 主な疾病・異常の被患率

疾病・異常等のうち主なものについてその推移をみると表のとおりである。

・被患率第1位は、幼稚園及び小学校が「むし歯(う歯)」、中学校・高等学校では平成24年度以降「裸眼視力1.0未満の者」が第1位となっている。

・「むし歯(う歯)」は各校種とも減少しているが、「裸眼視力1.0未満」は小中高で増加、その他の疾病・異常は概ね横ばいの傾向にある。

(単位：%)

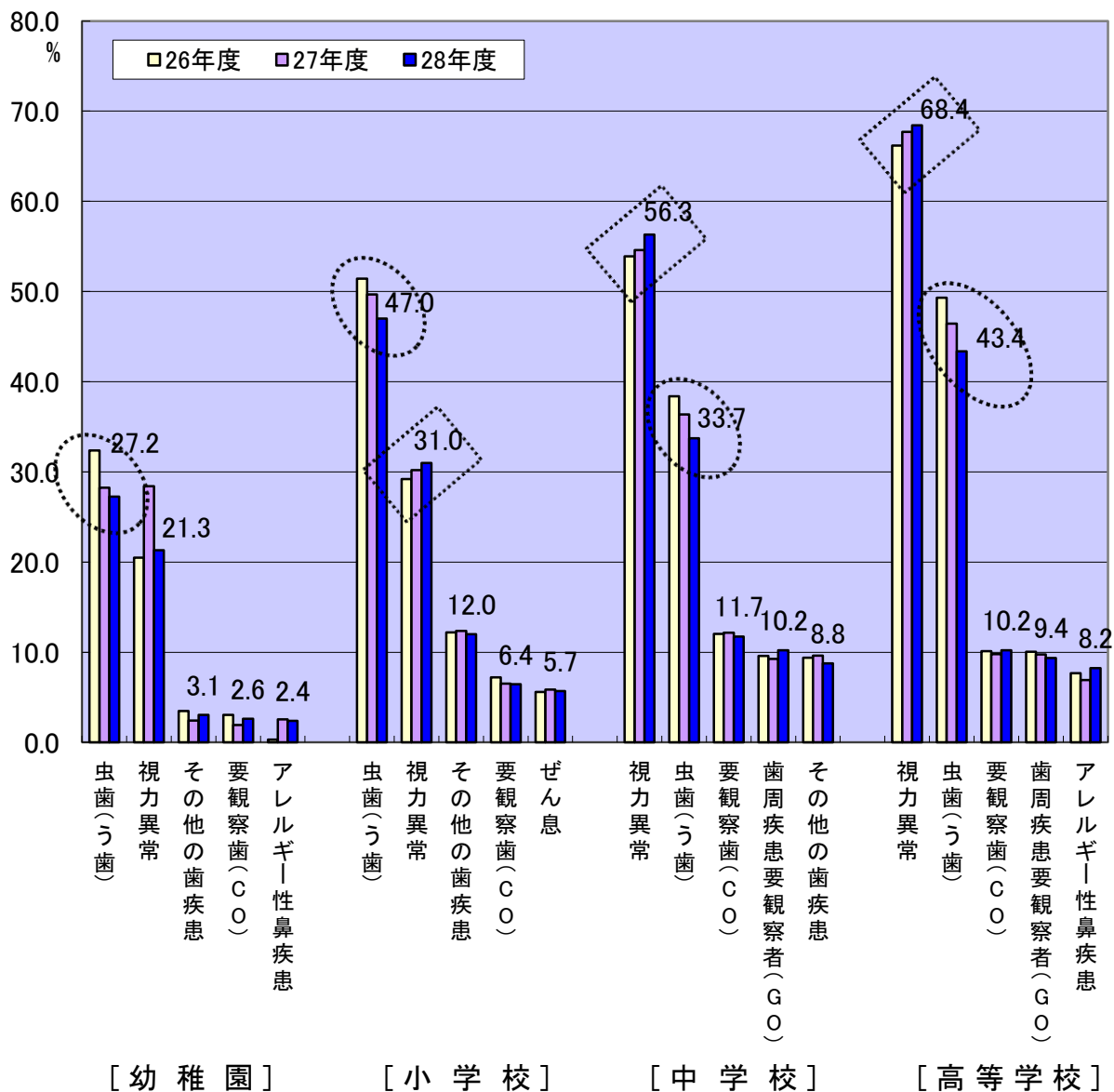
区分		むし歯(う歯)	アレルギー性皮膚疾患	ぜん息	裸眼視力1.0未満	心電図異常	蛋白検出	せき柱・胸郭・四肢の状態	耳疾患	鼻・副鼻腔疾患	アレルギー性鼻疾患	口腔咽喉頭疾患・異常
幼稚園	平成 18	49.4	2.5	1.2	33.5	-	0.2	(0.2)	1.8	3.4	2.4	2.8
	24	39.5	2.1	2.6	28.2	-	0.5	(0.1)	0.5	1.6	0.6	1.3
	25	35.6	2.7	1.9	27.4	-	0.3	(0.1)	1.0	2.5	1.1	0.7
	26	32.4	1.5	0.9	20.5	-	0.2	(0.1)	1.0	2.0	0.3	1.0
	27	28.2	1.0	2.1	28.4	-	0.0	(0.2)	1.0	2.0	2.6	1.1
	28	↓27.2	1.2	1.8	↓21.3	-	0.7	1.1	1.3	1.1	2.4	0.9
平成 28 年度 全国		35.6	2.4	2.3	27.9	-	0.7	0.3	2.8	3.6		1.1
小学校	平成 18	67.8	3.9	4.4	26.1	3.0	0.4	(0.2)	4.0	5.8	4.8	0.5
	24	54.2	4.5	5.8	29.6	2.2	0.3	(0.5)	5.2	5.9	5.4	0.6
	25	53.1	4.5	5.8	29.0	1.9	0.3	(0.4)	5.3	5.4	4.8	0.7
	26	51.4	4.3	5.6	29.2	3.2	0.4	(0.5)	5.5	5.3	5.1	0.7
	27	49.7	4.3	5.9	30.2	2.5	0.4	(0.6)	5.8	4.9	4.3	0.7
	28	↓47.0	3.9	5.7	↑31.0	3.1	0.3	1.6	5.5	4.6	4.6	0.6
平成 28 年度 全国		48.9	3.2	3.7	31.5	2.4	0.8	1.8	6.1	12.9		1.4
中学校	平成 18	55.3	3.0	4.2	49.5	4.2	1.1	(0.5)	2.1	3.6	4.9	0.3
	24	42.4	2.4	4.7	53.4	3.1	1.0	(0.5)	3.3	4.8	5.3	0.4
	25	39.5	2.2	4.9	53.6	2.5	0.9	(0.9)	3.6	4.0	4.8	0.4
	26	38.4	2.2	4.5	53.9	2.7	1.4	(0.8)	3.7	3.8	4.9	0.3
	27	36.4	2.2	4.4	54.6	3.1	1.1	(0.8)	3.9	3.6	4.8	0.4
	28	↓33.7	2.4	4.4	↑56.3	3.4	1.0	4.0	4.1	3.2	5.0	0.4
平成 28 年度 全国		37.5	2.7	2.9	54.6	3.3	2.6	3.4	4.5	11.5		0.7
高等学校	平成 18	68.0	1.6	1.1	62.4	4.3	1.0	(0.5)	1.0	2.3	6.0	0.2
	24	52.8	1.5	1.5	65.9	3.6	0.4	(0.6)	1.6	1.8	6.7	0.2
	25	51.9	1.5	1.5	65.7	3.5	0.4	(0.7)	1.1	1.9	7.7	0.3
	26	49.3	1.4	1.4	66.2	3.1	0.5	(0.7)	1.2	1.6	7.7	0.2
	27	46.4	1.7	1.5	67.7	3.5	0.4	(0.6)	1.3	1.5	6.9	0.3
	28	↓43.4	1.4	1.4	↑68.4	3.4	0.4	2.2	1.6	1.9	8.2	0.2
平成 28 年度 全国		49.2	2.3	1.9	66.0	3.4	3.3	2.5	2.3	9.4		0.4

(注) 1 「裸眼視力1.0未満の者」には、コンタクトレンズ等を使用し、裸眼視力未実施の者を含む。

2 心電図は、小1、中1、高1で実施している。

3 「せき柱・胸郭・四肢の状態」については、平成27年度までは「せき柱・胸郭」のみ実施している。

(2) 疾病・異常の上位5位の状況



※ グラフ内の値は平成28年度値(%)

(3) むし歯(う歯)の処置状況

(単位：%)

区分	幼稚園		小学校		中学校		高等学校		
	28年度	18年度	28年度	18年度	28年度	18年度	28年度	18年度	
う歯のある者	27.2	49.4	47.0	67.8	33.7	55.3	43.4	68.0	
内訳	処置完了者	12.4	22.3	26.6	40.5	21.5	37.4	27.0	44.1
	未処置の者	14.8	27.1	20.4	27.3	12.2	17.9	16.4	24.0
	(未処置率)	(54.4)	(54.9)	(43.4)	(40.3)	(36.2)	(32.4)	(37.8)	(35.3)

(4) 12歳児の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)数

(単位：本)

区分	長野県						全国
	18年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度
全体	1.4	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8
内訳	男子	1.3	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8
	女子	1.5	1.0	0.9	0.9	0.8	0.9

4 健康課題

長野県における子どもたちの大きな健康課題は、視力低下とむし歯にある。

(1) 視力低下は、生活環境や生活習慣の変化によるところが大きいと考えられ、引き続き、保護者や学校医と連携し、改善に向け保健指導を推進する必要がある。

(2) 「むし歯」は減少傾向にあり、全国と比較しても良好であるが、「要観察歯（CO）」や「歯周疾患要観察者（GO）」を加えると、まだまだ大きな割合を占める状況にあり、また、「未処置者への指導」も必要であり、歯科保健の更なる向上を図る必要がある。

各学校は、医療関係者や地域保健機関と連携し、児童生徒の個別の健康課題に対処するとともに、保健委員会等において健診データを共有し、それぞれの健康課題を分析して疾病の未然防止に取り組んでいくことが求められている。